

(2) 回転式マーカー等利用による落水をしない田植え

一般的に田植機は直線的に作業するため、田面にすじを付けるマーカーが装着されており、そのすじを目安にすることで、真っ直ぐに効率的な作業が行えるよう工夫されている。しかし、従来のマーカーでは、田面水位が高いとマーカー跡のすじが見えにくくなり作業性が劣るため、田植前には落水し、マーカー跡が見えやすいようにして作業が行われてきた。



写真 - 12 従来型マーカーによる田植え作業
(田植え時に水があるとマーカーがつけたラインが見えない)

ア 回転式マーカー利用

回転式マーカーでは、田面水位が少々高くてもマーカー跡がハッキリ見えることで、落水せずに効率よく田植作業ができるため、濁水の流出を抑えることができる。

- ・マーカーが回転しながら土を跳ね上げ、田面に印をつけていく。

- ・従来の田植機のすじ状マーカーを、回転式のマーカーに取り替える。取り替え作業は簡単に行える。従来機では、取り付けできる機種は限られる。

- ・旧式のミッド式施肥田植機に取り付ける場合、マーカー格納状態で植え付け部を降ろすと、マーカーが施肥タンク部に接触する場合がありますので注意する。



写真 - 13 回転式マーカー

- ・マーカーには方向性があり、逆に付けるとうまくマーカーが回らないので、取り付け時に注意する。

- ・田植は従来の方法と同じ作業で行え、少々の深水でも作業性は劣らない。

- ・5 cm位までの浅水であれば、マーカー跡はハッキリと見え、田植はしやすく、作業に支障は出ない。10 cm以上の深水ではマーカー跡が見えにくくなるので、浅水で代

かきするとともに、代かき後の入水量は少な目にし、田植時に深水になりすぎない様注意する。



写真 - 14 回転式マーカによる
田植え作業



写真 - 15 回転式マーカ跡

イ 偏光グラス（眼鏡）を利用した強制落水防止

田植え時の水深が高く水面がぎらついて田植機マーカのラインがよく見えない場合に、強制落水してしまうことにつながっていることが多い。

このようなとき、偏光グラスをかけて田植え作業を行う農業者が結構ある。

偏光グラスは、水面などの反射光を遮り、水中の視界をクリアに確保する。また、まぶしさを遮断し、目も疲れにくくなることから、魚釣りをはじめドライブ、登山、ウィンタースポーツなど様々な場面で活用されている。田植えの場合でも、田面水がある程度澄んでいれば、水深5cmくらいの状態でも田植機マーカ（通常の線引きマーカ）のラインがよく見え、強制落水せずに田植えが可能である。

ところで、ほ場の土壌特性によって田面水が澄むスピードが異なるので、偏光グラスの効果の有効に出すために、代かき後何日くらいで田面水が澄むか考慮して作業日程を組む必要がある。

なお、偏光グラスは比較的安価で購入できる。

さらに、偏光グラスと併せて、前項の田植えマーカ付きの田植機を利用することにより、より安定的に落水せずに田植えすることが可能となる。